

津田遺跡発掘調査現地公開資料

財団法人 大阪府文化財センター

津田遺跡発掘調査概要

遺跡名称：	津田遺跡
所在地：	枚方市津田南町1丁目地先他
調査原因：	第二京阪道路（一般国道1号）建設事業
調査機関：	財団法人 大阪府文化財センター
最終遺構面の面積：	7,881㎡（予定）
調査期間：	平成17年12月1日～平成19年3月30日（予定）

調査の概要

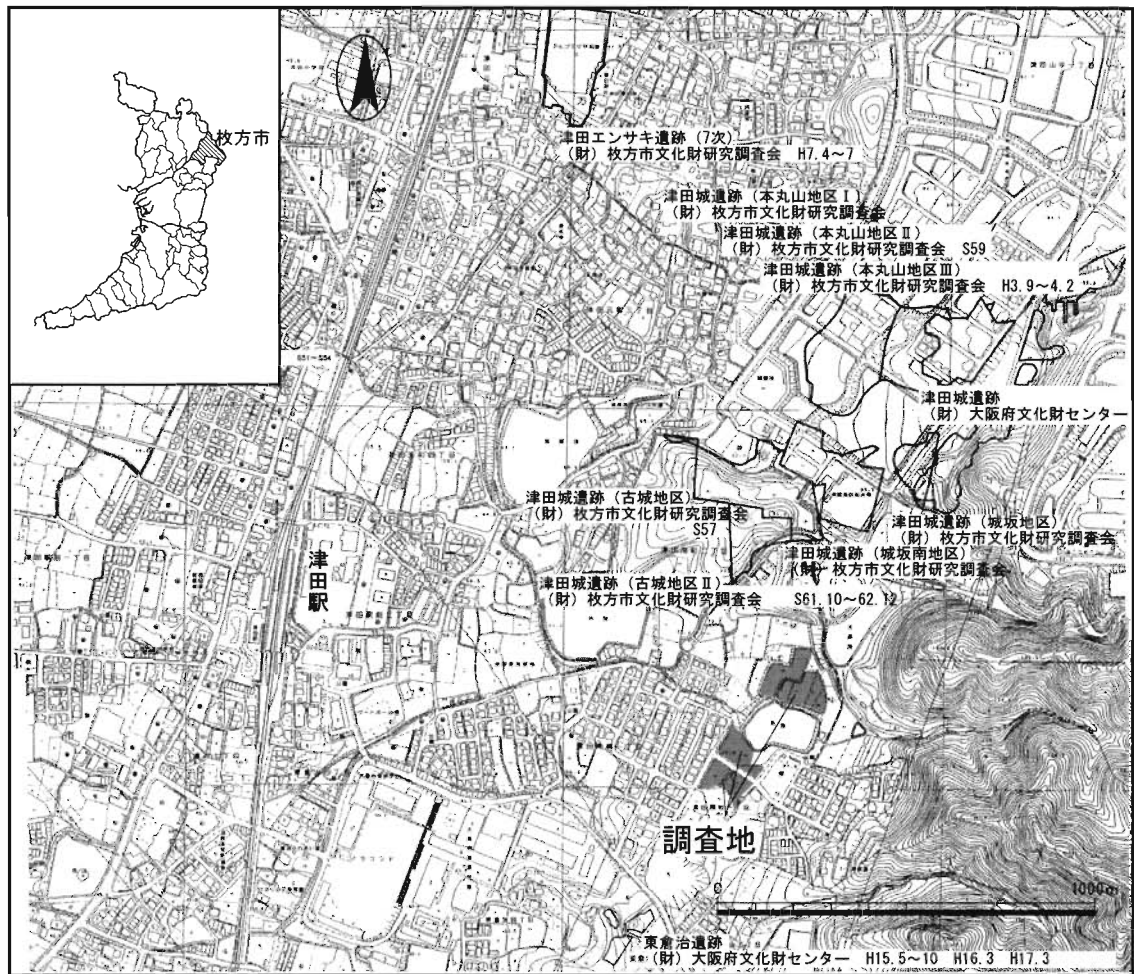
調査地は、交野山の西麓、標高80m前後の高位段丘に位置する。今回、公開の対象となる2調査区は、南北両側に谷が走り、東側も尾根筋とは連続しておらず、独立した台地となっている。

台地の上では、主に鎌倉時代の掘立柱建物跡、土坑、溝などが検出された。建物跡は2棟検出されている。掘立柱建物1は南北3.5m、東西5mを測る建物である。この西側にある柵1より西には遺構が存在しない事から、ここが屋敷地の西端であることが分かる。掘立柱建物2は南北7m、東西4mを測る。この建物の東側にある363土坑からは造付けカマドを破壊したものであると思われる板状の焼土と鍋などの煮沸具が出土している。また、建物北側の478土坑からは灰や炭が大量に出土している。これらのことから、掘立柱建物2は厨房施設の可能性が高い。276溝は調査区北東部で検出された。南北方向から東西方向にL字形に曲がる幅1.5～3mを測る溝で、屋敷地を区画する大溝である。確認された2棟の建物は、いずれも小規模で屋敷の中心施設とは考えがたい。本来、屋敷の中心施設が存在したのは、周辺よりもやや高い掘立柱建物1の東側であったと思われるが、調査地は、江戸時代の大規模な削平を受けており、すでに失われたものと思われる。

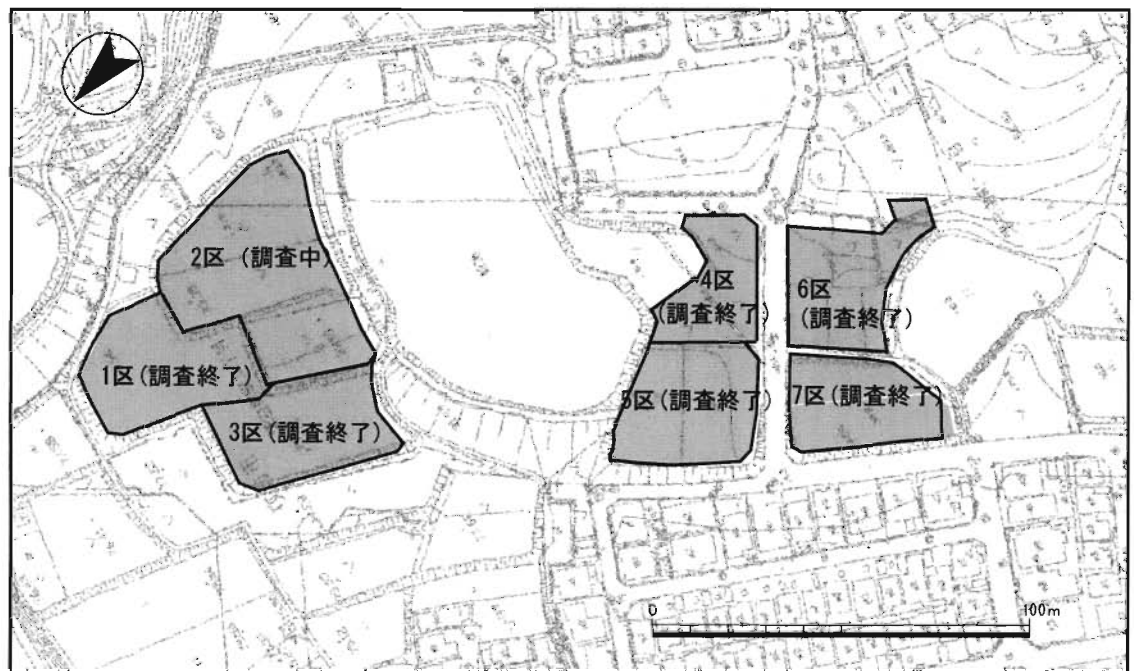
また、この他、調査区の東部では竪穴住居が検出されている。弥生時代と思われる焼失住居（306竪穴住居）、弥生時代後期末（305竪穴住居）、7世紀（308竪穴住居）のものがそれぞれ1棟ずつ検出されている。

遺跡の評価

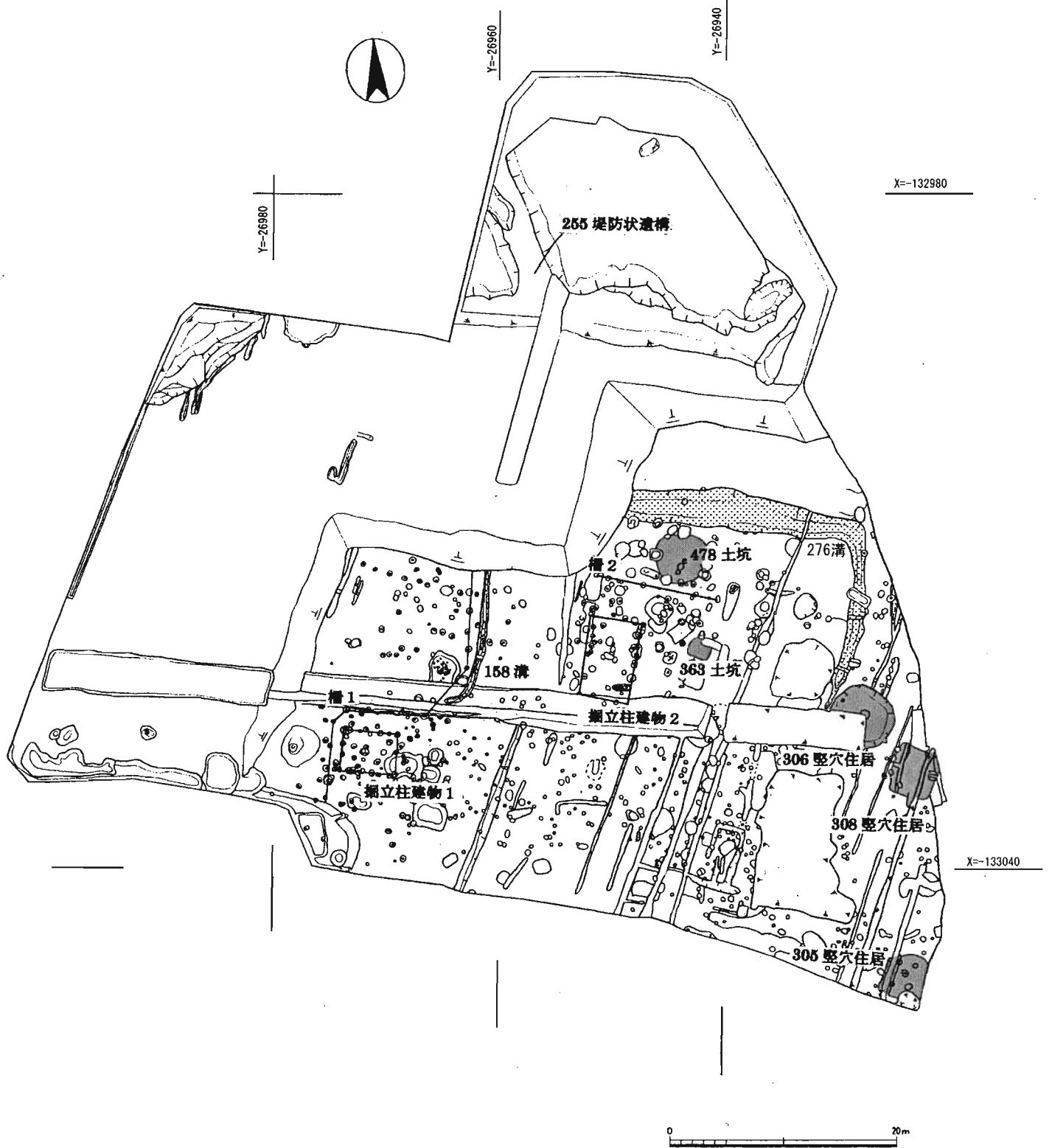
今回検出された建物群は、柵1と276溝の存在から屋敷地の北限・東限・西限が判明する。また、南側も谷によって限られており、屋敷地の四辺が確定する。その規模は、40m四方となる。調査地は、今も用水池の水源となる水路に隣接しており、今回検出された鎌倉時代の遺構は、屋敷地規模と用水権を掌握できる立地から領主層の館であった可能性が高い。



調査地位置図



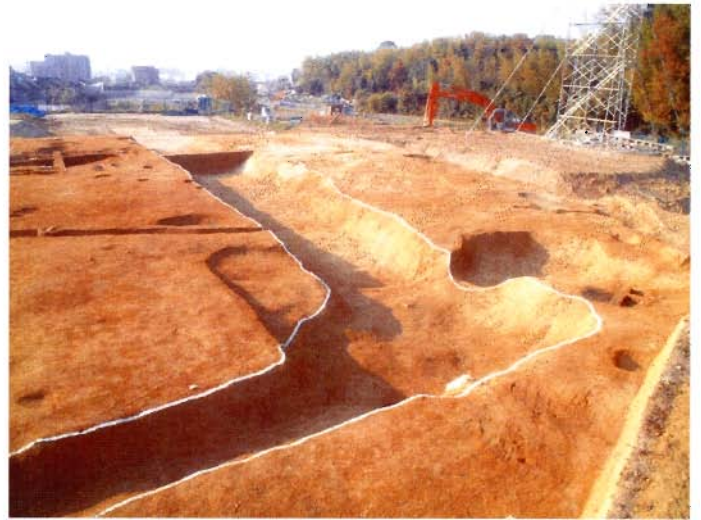
調査区配置図



津田遺跡 1 ~ 3 調査区平面図



2 調査区全景（北から）



276溝（南東から）



掘立柱建物 1（東から）



掘立柱建物 2（南から）



306 竪穴住居（南から）



308 竪穴住居（西から）